

## 会 議 の 概 要

1 会 議 名	令和7年度第2回宝塚市社会教育委員の会議
2 開 催 日 時	令和8年1月29日（木）10時00分～11時40分
3 開 催 場 所	宝塚市役所第2庁舎 会議室A
4 出 席 委 員 [■出席 □欠席]	■清水委員    ■筒井委員    ■大西委員    ■温井委員 □石井（宏尚）委員    ■林委員    ■皐月委員    ■西本委員 ■金森委員    ■石井（隆司）委員    □槇委員
5 傍 聴 者 数	0 人
6 公 開 の 可 否	■ 可    □ 不可    □一部不可
7 議題及び結果の概要	<p>1 議題</p> <p>（1）第2次宝塚市教育振興基本計画（案）の報告について</p> <p>（2）家庭教育等に関する事業について</p> <p>2 その他、報告事項</p> <p>（1）「ことばの教室運営委員会」への補助金について</p> <p>（2）阪神北地区社会教育委員協議会等について</p> <p>3 次回開催（未定）</p>

## 令和7年度第2回宝塚市社会教育委員の会議 議事要旨

### 1 議題

#### (1) 第2次宝塚市教育振興基本計画（案）の報告について (事務局)

令和7年6月に「宝塚市における家庭教育について」の提言書をいただき、第2次宝塚市教育振興基本計画へも一部反映させていただいたため、該当箇所について説明を行う。

#### (2) 家庭教育等に関する事業について (事務局)

本提言書等を踏まえて、今後の事業を計画・実施していく中で、具体的にどのような事業があれば良いかなどの意見交換を提案。

参考に、公民館指定管理者と実施する家庭教育セミナーについての説明を行う。

#### (委員)

提言書は資料1になるのか。

#### (事務局)

提言書は参考資料と記載があるものになる。

#### (委員)

中学校の部活動の地域移行について、社会教育としてどのような方向性を知りたい。

既に実施されているミニたからづかでは、子どもたちが主体的に宝塚市の未来について考える機会となっているが、それとは別に社会教育として、主体は子どもであっても、異年齢を巻き込んで未来について考えられる事業があればと考える。

#### (副議長)

ミニたからづかの運営に携わっている。中高生だけでなく大人ボランティア（民生児童委員やコミュニティ関係者）や以前に参加していた中高生スタッフのOBなども関わっており、幅広い年齢層で実施している。準備期間を含め半年間で、参加している子どもたちの意識などが変わっていく様子を感じることが多く、長年かけて良い形で実施できていると思う。これをそのまま別の主催者や場所で開催するのは難しいが、作り上げていく過程で応用することは可能だと思う。

(委員)

本事業をそのまま別のところで実施は難しいと思うが、ミニたからづかに参加していた子どもたちを招いて、様々な世代と宝塚市にどういう期待を持っているかなど意見交換や交流ができれば良いのではと考える。

(事務局)

事業について、いただいたご意見を参考にさせていただく。

現行の部活動については、運動系であれば令和8年度の大会（中体連）、文科系は発表会までは残る。地域移行については、実施する地域の団体を募集し、現在決定している団体や調整中の団体がある状況。生徒は、令和8年4月から地域クラブで活動することもできるし、大会等までは現行の部活動に所属することも可能。現在、保護者説明会を開催し始めている状況のため、そこでいただいたご意見などを反映していく予定。

(議長)

兵庫県は今年度中に移行することを想定しているが、他市では難しいという声を聞くことがある。

(事務局)

阪神間では、多少の差はあるが同じ足並みで進めている。

これまでの部活動は種目が限られていたが、地域の方々で実施可能なものを加え紹介していく予定。これまでにない珍しいものもあり、例えばドローンサッカーやビリヤードなどがある。しかし、全ての学校でこれらの種目を実施することは難しく、どこかの学校を拠点にし、そこに子どもたちが集まることになる。そのため、一度帰宅し、別の学校へ自転車等で移動が必要になる場合もある。

(委員)

実施場所は基本的には学校になるのか。

(事務局)

現在部活動を実施している時間は、引き続き学校も使うことができる。一部は別の拠点場所があり、そこで実施するものもある。会費や活動内容を精査し、推奨の団体、認証の団体、任意の団体のように整理をしたうえで、保護者へ周知することを考えている。

(議長)

阪神間は人材が豊富とお聞きした。

(事務局)

郡部では、マンパワーなど厳しい現状もある。

(議長)

学校だけでやっていた頃より種類は増えているように感じる。

(事務局)

現在でも少子化の影響で野球やサッカーなど大人数で行うスポーツは、1つの学校ではチームの編成が難しい状況があるため、ブロックでチームを編成することを考えている。

(副議長)

部活動のこれまでの概念を子どもだけでなく大人も改めないといけないと感じる。対象の子どもを持つ家庭以外にも、並行して周知が必要だと感じる。

これまでは学校で実施されていたため、希望すれば誰もが参加できていたが、これからは種目、場所が限られ、経費もかかってくるため、本当はやりたいが経済的に困難な家庭はできなくなるのではという声を地域で聞くことがある。補助などは検討しているのか。

(委員)

継続的な活動でなくても単発的なイベントや、今年度お世話になったお米づくりなどの野外体験など、学校の中だけにとらわれないことや、地域の協力を得ながら幅広く実施していくことが必要。しかしこれが格差になってはいけないと考える。小さなことでも地域総がかりで支えていただける仕組みを検討いただけるとありがたい。学校としても施設開放については、協力できることはしたいと考えている。

(事務局)

部活動の地域移行については、過渡期ということもあり、対象者以外への周知は十分にできていないと認識している。ご意見についても、今後参考にさせていただく。費用補助については、現在のところそういった制度はない。地域移行をしても大会へ出場することは可能なため、大会に向けて頑張る団体もあれば、誰もがスポーツに取り組めて、楽しむことを目的とした団体もある。これから実施できる団体を増やし、子どもたちに様々な経験ができるようにしていきたいと考える。

現段階で地域クラブの登録数は50ほどとなっている。珍しいもので言えば、登録

数は少ないが、料理やボランティア、プログラミング、少林寺拳法、護身術、ダンス、テコンドー、ヨガなどがある。

(副議長)

地域の集まりで、兵庫県警からネット犯罪について教えていただく機会があり、子どもたちはオンラインのゲーム上で対面でなくとも交流できる世界にいることを学んだ。地域としては、こういう話を聞くと、体験や対面の大切さも知ってほしいという気持ち大きい。部活動地域移行の対象の中学生に限らず、実体験が今の子どもたちは少ないと思う。また、親や先生以外との大人と関わることも大切だと思う。そういったことを社会教育で進めていければ良いのでは思う。公民館講座においても、ただ講座を聞くだけではなく、親子で体験する機会があれば。今回、不登校の講演会を実施するとお聞きし、嬉しく感じている。以前に不登校の子がいる方とお話していると、不登校になって初めてどうしようとするケースが多いが、誰もが起こり得ることであり、かといって予防するものでもないため、なった際にどうすればいいかを分かっているならば、慌てることが少ないと感じる。不登校である対象者だけでなく、広く知ってもらうことで、気軽に相談が行ける、他人事ではない意識づけをすれば、現状が少し明るくなるのではと考える。学校にいけないから駄目ではなく、親が認められるようになれば。そういった教育フォーラムのようなものが年に1回あれば良いと考える。

(委員)

今回の家庭教育セミナーでは、中央公民館が会場となっているが、例えば映画上映において、どこかの学校を会場にし、地域の人など誰が来ても良いようにし、学校がしんどいと感じている子や教職員にも観てもらえるようにすることもできる。その際に、今の中学生がどんな様子で授業を受けているのか地域の人に見ていただくこともおもしろいのでは。学校と様々な団体がうまく連携していけばもっと活性化できるのでは。本校で講演会を開催する際には、地域の人にも来ていただいている。すると次はキッチンカーを呼んだらどうかという提案をいただいたりし、今年は200人ほどに来ていただいた。社会教育課が色々な団体と日頃から繋がっていけば、映画上映にしてももっと深められるのでは。

(委員)

先日参加した、兵庫県教育研究大会において、丹波市のお寺の住職とお話する機会があり、嫌なことや気になることなど、何かを話したい人がお寺に集まり、そこで聞いてもらうことによって気が楽になり、居場所の一つになっているという事例をお聞きした。宝塚市でも同じようにできるかは分からないが、ヒントにならないかと感じ

た。

部活動の地域移行については、自分の子どもは大きくなり対象ではないため、現状を初めて知った。自分もシニア世代となり、少子化が進む中で、シニア世代をどう活用するのかを具体的に考えることが必要だと思う。

(副議長)

フレミラは子どもとシニア世代を対象とした複合施設となっており、囲碁を教えてもらうなどの多世代交流を行っている。社会福祉協議会では、宝塚ボランティアプラザ zukavo（ヅカボ）を運営しており、LINE 登録をすると、ボランティア募集の案内が届くようになっており、以前より集まるようになったと聞いている。シニア世代も関心がない訳ではなく、どのように一歩踏み出せばいいか分からないのではないかと思う。学校現場へも行きたいと思っても、新型コロナウイルス流行以降、学校へ入っていきにくい状況であったり、学校の考えなどを話し合う場がなかったりすることがある。

(委員)

学校現場では、閉ざしている訳ではないが、やりたいことがあっても誰に聞いたら良いか分からないという話を聞くことがある。特に他市から来られた管理職は、地域の状況が分からないことがある。

(副議長)

コーディネートする役割が必要。

(委員)

新型コロナウイルス流行移行に様々な事業が見直しとなってきたが、本校では、人権に関する事業、小学校の音楽会、中学校の吹奏楽部の演奏会をまとめてマルシェとして行うことによって、普段学校に来ない地域の人を巻き込みながらうまく一体化することができた。そういった見直しも必要だと感じる。

(副議長)

地域でも行政内でも横の繋がりを持とうとしているが、お互いの考えがありうまく進んでいないように感じる。その間を繋げられる人がいればスムーズになるのでは。

(委員)

本校では、地域コーディネーターを配置いただき、自治会などと繋がることができた。

(副議長)

丹波市の住職のお話しについて、宝塚市では平林寺が場所を提供し定期的に集まりが開催されている。

(委員)

もっと横に展開できれば良いのでは。

(副議長)

地域で活動するには、場所と費用が必要となる。場所を提供いただけると、会の継続に繋がる。

(委員)

部活動の地域移行について、今後進めていく中で、全く所属していない子の割合や、なぜ所属していないのかなどを調査し、把握することが必要だと考える。

(事務局)

去年調査した際には、中学生の25%は部活動に所属していなかった。今後は、学校から地域クラブへ移行していくため、調査方法について検討する必要があるが、発展させていくためには、必要な情報と認識している。

(委員)

部活動についてたくさんお話が出たが、放課後の子どもの過ごし方について、安全、安心、有意義に過ごしてほしいと思うのは、学校、家庭、地域それぞれ同じ気持ちだと思う。その準備期間として時間をかけて進めていると認識している。小学生高学年では、自分たちが中学へ入学する頃には部活動はないという少し残念な気持ちを持っている子がいたり、放課後どのように過ごそうか心配している子がいる中で、保護者説明会には小学生の保護者も参加しておられ、関心が高いと感じる。心配ごとなどのご意見を聞きとっていただきながら、その対策について真剣に協議いただいていることが伝わっていくことで、納得を得られていくのではと考える。地域に協力いただく団体の中には、高齢の方もおられると思う。

(委員)

部活動のお話しをお聞きしていて、子どもたちを第一に考えることはもちろん大切だが、それに意識がいきすぎてしまっているといけないと思う。これまでは先生方のご苦労があって成り立っていたため、大人側はまずそこを理解することが必要だと思う。

もう1つは、実施してくださる団体のこともよく考える必要があると思う。もしかしたらこういった状況のため、無理をして手を挙げてくださっている団体があるかもしれない。例えば、広報が不足してしまい、子どもが集まらず実施できないことになってしまうと、実施団体数がどんどん減ってしまい、結果的に子どもたちの選択肢がなくなると、様々な活動に触れられるチャンスがなくなってしまうので、そういったところにも目を配ってほしい。

(委員)

部活動ということに限らず、子どもの居場所として自習ができるなどバラエティーに富んだ場所が官民間問わずあれば。児童館は居場所の一つとなるが、例えば開所の条件などが緩やかになれば共働きの家庭などへの還元も大きいのでは。部活動だけでない預かりや、居場所のスペースを提供があればニーズは高いのでは。

(委員)

地域団体が実施する活動に参加するには、費用が必要になるのか。無償のものはあるのか。

(事務局)

部活動の地域移行については、教職員の働き方改革に向けた流れとなっている。先ほど50団体ほどあると説明させていただいたが、その中にはもともと顧問をされていた教員が立ち上げた団体も含まれている。完全に民間事業者が実施するという訳ではなく、スポーツ協会にてテニスなどの団体を立ち上げている事例もある。

費用については、どの活動をするにしても、ケガなどに対応できるよう活動保険に加入する必要がある。その他には、指導者への謝礼金、活動場所の費用が必要となる場合がある。月に3〜5千円の会費でお願いしている状況。この範囲内であれば学校施設を使っても良いなどルール化を進めていく予定。

(委員)

放課後の子どもの居場所について、中学生だとテスト前は勉強をしたい子もいると思うので、自習するスペースがもっとたくさんあれば良いと考える。中央公民館などのロビーなどいつもたくさん人がいる。スペースがたくさんあれば居場所にもなり、ある程度の安全や安心にもなると考えられる。

(副議長)

中央公民館へ以前行った際には、夜の空き部屋を活用して、臨時自習室を開放していたのを見かけた。これから受験の時期になるため、こういった展開をしているのを



継続することで、居場所の一つになると思う。

(事務局)

公民館指定管理者からは、自習室が満員の際には、空き部屋を活用している旨をこちらもお聞きしている。

(議長)

西宮市では、ある小学校で放課後の居場所の一つとして宿題ができる取り組みをしていると聞いた。以前に民間会社が駅中で宿題をすることができ、タクシーでの送迎がある取り組みをしていたが、新型コロナウイルスの影響でなくなってしまった。

(副議長)

小学生だと放課後子ども教室があるが、運用の課題などがあり活動の存続の危機がある。

(事務局)

子ども未来部の所管になるが、出席している会議などでは、担い手が不足していると聞いている。

(副議長)

シニア世代をうまく活用できれば。

(委員)

こういった会議に参加する機会があり、人手不足などの情報を知っている人は既にボランティア活動などで忙しくされている。まだ知らない人へどのように伝えるかが難しいと感じている。

(委員)

エフエム宝塚では、子どもに人気の番組があり、小学生の作文とクラブアワー（クラブ活動の紹介）である。クラブアワーは番組の構成を今後どうしていくか悩んでいる。

(委員)

小・中学校のクラブ活動や部活動の目的を確認したい。自分の当時の頃は、主従関係を重視する場所というイメージがあった。そのイメージでいくと部活動の地域移行、学校教育での部活動のそれぞれの理念は真逆になると考える。あと、不登校の人

数をお聞きしたい。

(委員)

部活動の全てを知っている訳ではないが、放課後の居場所の一つでもあり、国語などの勉強以外にも様々な体験を学年を超えてすることも大切である。顧問をする教員も参加する生徒も色々な考えがある。色々あることは良いが、一番良くないのは、教員の専門性が高いからといって、名誉や成績のために行き過ぎた指導をすることだと考える。今は時代的にも発想を変えていく必要があるため、部活動だけでなく、日頃の学校生活も社会総がかりでやっていく意識が必要。

(副議長)

フリースクールや別室登校などの統計の取り方が複雑だと思う。

(委員)

以前に比べて増加傾向にある。通信制の学校へ通っている人数も増加している。

(委員)

これまでは年間に何十日以上学校へ通わない日があれば不登校とみなす考えもあったが、現在は学校以外でも社会活動を行うことは大切という考えもあるため、例えば、午前には自分が行ける事業所へ行き、午後から学校へ行くなど選択できる考えに変わってきている。個々のケースによって異なるということを学校では共通認識している。

(委員)

学校は不登校の子は学校戻るのが良いという考えなのか。

(委員)

無理にでも戻ってきてほしいとは考えていないが、家に引きこもるのは避けたいと考えている。自分の学校の子どもであるため、繋がりがあれば嬉しいので、行事などその子のためにできることはしたいと考える。学校だけでなく不登校支援やフリースクールなど社会と接することを維持したいと考える。

最近、相談をどこにしたら良いか、相談することに対して周りの目が気になるなどの保護者も困っているのではと感じる。行政の関連機関などへ繋ぐようにしている。

## 2 その他、報告事項

(1)「ことばの教室運営委員会」への補助金交付について

⇒事務局から交付について説明

委員 異議なし

(2) 阪神北地区社会教育委員協議会等について

①阪神北地区社会教育委員協議会について

・第2回理事会

日時 令和7年8月27日(水) 15:00～

場所 猪名川町文化体育館

内容 兵庫県社会教育研究大会 分科会について

第2回研修会の進め方について

情報交換会等

・第3回理事会

書面にて「令和8年度全国社会教育研究大会の分科会発表について」を審議

②近畿地区社会教育研究大会（和歌山大会） ※台風のため中止

日時：令和7年9月5日(金)

会場：和歌山県民文化会館

③兵庫県社会教育研究大会

日時：令和7年11月26日(水) 13時00分～16時00分

会場：神戸市教育会館 大ホール

阪神北地区が分科会の当番となり、本市は西谷にある自然の家での取り組み（お米づくりプロジェクト）について発表を行いました。（詳細は別紙のとおり）

④令和7年度阪神北地区社会教育委員協議会日程（予定）について

・阪神北地区社会教育委員協議会第2回研修会

日時：令和8年2月4日(水) 14時～16時

会場：猪名川町中央公民館ほか

・阪神北地区社会教育委員協議会第4回理事会

日時：令和8年3月（日程未定）

会場：猪名川町文化体育館

⑤その他

令和8年度全国社会教育研究大会は大阪が会場となり、近畿地区社会教育研究大会と

合同で開催予定です。その際に、分科会の1つを阪神北地区で当番することが決定しています。兵庫県社会教育研究大会での内容を発表予定です。(現在調整中)

### 3 次回開催

(事務局)

今後については、臨時の議題がなければ、委員改選後の8月頃開催に向けて、日程調整させていただく。

(議長)

公募委員は今年の7月までが任期となり、このメンバーでの会議はこれで最後となるかもしれない。良ければ、最後にお言ずつ皆さんからいただきたい。

(全員一言ずつあいさつ)

(議長)

ありがとうございました。

それでは、以上をもって、本日の議事を終わらせていただく。